

障がい福祉に関する当事者アンケート調査集計結果報告書(概要)

1 障がい福祉に関するアンケート調査について

(1) 目的

障がい者の現状やニーズ、課題を把握し、障がい者計画及び障がい福祉計画に定める施策の参考とするため、実施しました。

- 障がい者の現在の生活状況等の把握
- 自立と社会参加に必要なニーズの把握
- 障がい福祉サービスのニーズ把握

(2) 調査対象者数

3,243件

令和4年11月1日現在で、下記1と2に該当する方の全数調査

- 18歳から65歳未満までの各種手帳所持者
- 65歳以上の障がい特性に応じたサービス利用が見込まれるコミュニケーション支援が必要な視覚、聴覚等の障がいのある人や療育手帳、精神保健福祉手帳所持者

(3) 調査方法

郵送によるアンケートを実施

(4) 実施期間

令和4年12月13日～令和5年1月31日

(5) 回答数及び回答率

回答件数1,195件(回答率37.1%)

手帳等の種類	送付件数	割合(%)	回答件数	回答率
身体障害者手帳所持者	1,531	47.2%	697	45.5%
療育手帳所持者	652	20.1%	207	31.7%
精神保健福祉手帳所持者	1,060	32.7%	356	33.6%
合計	3,243	100.0%	1,195	37.1%
年齢				
18～65歳未満	2,399	73.9%	819	34.1%
65歳以上	844	26.1%	369	43.7%
別				
無回答	—	—	7	—

※手帳別回答件数の合計は重複回答も含まれるため、実際の回答件数(1,195)と一致しない。

2 アンケート調査結果の総括

(1) 調査項目から(抜粋)

1 希望する将来の生活の場について(「問15」)

現在、施設や病院にいる人のうち、「家族と一緒に過ごしたい」と回答した人が最も多く 15.0%と前回は2.6ポイント減となりました。一方で「グループホームなどを利用したい」は 12.1%(前回は3.7ポイント増)、「一般住宅で一人暮らしをしたい」は 2.8%と前回は0.3ポイント減となりました。

家族と一緒に過ごしたいという意向だけでなく、見守りや一定の支援のあるグループホームでの生活を希望する方が増える傾向にあることが伺えます。

2 障がいのある人が地域で生活する場合の支援について(「問16」)

地域で生活する場合に必要な支援として、「経済的負担軽減」が最も多く 21.2%と前回は0.3ポイント減となりました。また「地域住民の理解」は、6.1%と前回は1.5ポイント増で、経済的負担軽減に加え、地域住民の障がいのある方への理解が大切であることが伺われます。

(その他の回答)

「相談対応の充実」19.6%(前回は0.1ポイント増)、
「適切な在宅サービス」14.9%(前回は1.5ポイント増) など

3 就労について(「問24」)

現在、仕事をしていない人(18~64歳)のうち、「仕事をしたいがどうしたら良いかわからない」と回答した人が最も多く 30.2%と前回は5.8ポイント増で、「仕事をしたい」の 22.9%と併せると 53.1%となり、半数以上の方が就労への意欲をもっていることが伺えます。一方で「仕事をしたくない」は、25.2%と前回は1.2ポイント増で、一人一人に応じた就労支援の必要性も伺えます。

4 障がい者への差別など権利擁護について(「問32~問37」)

差別の経験については、「経験がない」が 54.0%で前回は3.4ポイント減と半数以上いる一方、「今も差別がある」と回答した人が 12.7%で前回は0.8ポイント増と、引き続き差別解消に向けた取組みが重要であることが伺えます。

制度の理解度について、障害者差別解消法の認知度は依然として低いことが伺えます。また、成年後見制度についても、更なる周知が必要であることが伺えます。

しょうがいしゃきべつかいしょうほう にんちど
(障害者差別解消法の認知度)

「施行も内容も知らない」64.4% (前回比0.5ポイント減)

「施行されていることも、内容も知っている」9.0% (前回比0.1ポイント減)、

せいねんこうけんせいど にんちど
(成年後見制度の認知度)

「名前も内容も知らない」34.4% (前回比5.7ポイント減)

「名前も内容も知っている」28.0% (前回比2.2ポイント増)

5 市の障がい福祉施策の満足度(「問41」)

市の障がい福祉施策の満足度については、「満足」、「ある程度満足」を合わせると49.4%で、前回比4.1ポイント減となりました。一方、「不満」、「やや不満」を合わせると30.0%で、前回比3.5ポイント増となりました。このことから、市の障がい福祉施策の更なる充実が求められていることが伺えます。

(2) 自由記載から(抜粋)

1 福祉サービスの充実や向上について(30件)

通所施設(生活介護)、短期入所、入所施設の充実を望む声が複数見られました。

また、医療的ケアのできる施設、一時預かりなどのレスパイト利用ができる

事業所、親亡き後の預け先が欲しいとの意見もありました。

2 相談支援体制について(6件)

「困った時にすぐに相談できるようにしてほしい」との声が複数見られました。職場

の合理的配慮について相談できる場所が欲しいといった声もありました。

3 情報提供に関すること(19件)

「福祉施策の情報が分からない」など、市からの積極的な情報発信を望む声が

複数見られました。また、「助成や減税、免税などを知りたい」「このアンケートで

施策や制度をいろいろ知った」「インターネットが使えない人へ書面などでの情報

提供」といった意見もありました。

4 障がいに対する理解促進に関することについて(28件)

小中学校など小さい頃からの障がい理解の促進が重要であるとの声が複数見ら

れました。また、「当事者の声を集めるアンケートは重要」「精神疾患(統合失調、

発達障害)への偏見をなくしてほしい」「障害者と日常的に接点のある地域であってほしい」といった意見もありました。

5 就労支援に関することについて(18件)

精神障がいや発達障がいのある人の働ける場の充実を求める声が複数見られました。また、「働ける場が少ない」「短時間でもできる仕事が欲しい」といった意見もありました。

6 福祉施策全般に関することについて(40件)

軽度の知的障がいや発達障がいのある人など、外見から分かりにくい障がいのある方への施策の充実を求める声が複数見られました。

「地域自立支援協会のメンバーに、障がい当事者の枠を複数設けて意見を聞いてほしい」「見舞金やタクシー券の金額の増」「安心して介護保険制度への移行できるようにしてほしい」といった意見もありました。

7 バリアフリー、交通に関することについて(28件)

「公共交通機関の充実」を求める声が複数見られました。

「横断歩道に『ちょっと長め』ボタンがあるといい」「車いす用トイレの整備と充実」「音の出る信号機の増設」などを求める声もありました。

8 経済的負担に関すること(30件)

「タクシー券の1回あたりの利用限度額を引き上げてほしい」「障がい者手帳3級でも給付金が受けられるようにしてほしい」「年金以外に市独自の支援をしてほしい」といった経済的支援の充実を求める声が複数見られました。